



皆さまいかがお過ごしでしょうか？

あまりにも突然で現実なのか否かとさえ疑う出来事が続き、心身ともに疲労している方も多いかと思えます。どうか皆様が健康であり、またお会いできる日が来る事を祈っております。

緊急事態宣言が出してから今日に至るまでに私が考え思っていた事をお伝えします。こうして形にできる機会を頂いた事に感謝し、そしてまた何かの役に立つことになれば幸いです。

---

この2ヶ月、自然は変わる事なく平常であり、陽は昇り、風は吹き、鳥は鳴き、虫達はこれまでと変わらない普通の生活をし、どちらかと言えば世の中の経済活動がスローになった事で、徐々に元気を回復している。一方、自然の一部であるはずの人間だけがコロナウイルスに振り回されている。今回のコロナでの自粛時間は、人の行為によって傷ついた自然が回復する時間にも思え、また目の前の自然に目を向けるための時間であるように感じている。自粛期間の世の中の動揺とは裏腹に、自然環境の回復をみると現代人のエネルギー利用に問題があることが明らかである。一体何の為に働き、どうしてそんなに忙しく、そして何かに追われながら生活しているのかと考えさせられた人も少なくないだろう。私もその一人である。

私達は健康的な大地や空気や水、自然があつてこそ、その恩恵を受けて生きられる。自然ありきの生活のはずが、現在は今の生活を守る為に経済を優先し、人間優位の視点で物事を判断し自然を犠牲にする世の中になっている。今回の環境の変化は、いかに私達が自然の一部としての枠に存在していないかを視覚化されると共に、現在の生活の在り方に問題があることに気付かされ、改善すべきと問いかけられているように思う。

私はこの2ヶ月を長野県の田舎で過ごした。私の仕事の殆どは予定延期となり、出張も中止となった。日々の仕事に追われる忙しい生活が一転した。これまでも田舎を拠点にしているが、年の半分以上は出張のため、落ち着いて田舎で生活する機会がなかった。長野での生活は、目の前に広がるアルプスに心を洗われ、散歩をし、日々変化する自然に感動し、鳥の囀りに癒された。毎日家族と3食を共にし、畑を耕し、野菜を育て、草刈りをし、山野草を採取して、山の恵みをいただいた。隙間時間に家の修繕をし、あっという間に1日が過ぎた。



これまでの生活とは違う日々を過ごす中で、以前のように制作活動ができないことへのストレスはあったが、家族と過ごす豊かな時間や自然を肌で感じる時間も増えたことでその気持ちも変化した。作家としての制作意欲は畑作業や森の散策、家の修繕へ向かった。日々変化する自然への観察と実験は生活の実践の中に組み込まれた。息子との時間は、私の知恵と知識を遊びを通して共有する場となった。生活自体が私の制作コンセプトである「地球と遊ぶ」へとなったことで、気がつけばストレスは薄れてむしろ楽しい時間へ。そして自分自身も自然の一部に近づけた感じがし、自然と共にある生活こそが人の営みなのではないかと実感した。

全ての生物は環境にあった生きる術を持って生まれてくる。動物や虫、植物も環境に適応した生きるために必要な身体または形状と機能を持ち行動範囲が決まっている。そうやって環境に対してのバランスが保たれている。人間も同じはずだが、その能力の使い方に問題があるように思える。人間は与えられた知能によって本来の身体機能よりはるかに行動範囲を広げ、また環境に与える影響も身体的能力を明らかに超えており、人間が与える自然負荷の問題は年々加速しつつある。今回の出来事で、これまではなかった仕事のスタイルが生まれ、新たな生活スタイルが増えつつある。都市集中型の生活が地方に拡散し、新たな価値観が生まれつつある。生活環境が大きく変わる今回の出来事が地球にとって人類にとって良い転換期である事を願っている。





この世にある全ての存在は必然であって役割がある。人間も然りである。地球における人の役割とは何か？ 未来の子供達に子孫に少しでも良い自然環境を残し、この限りがある地球という生命の寿命を短くする事なく繋げることこそが、私たちの役目だと私は考えている。もっとゆったりと自然に向き合い、自然の本質とは何か、この宇宙で人間がどうあるべきかと考えると共に、美術家として未来に何を残せるか？家族と共に畑の土に触れ、日差しを背に受けながら新たな地球との遊び方を考えている。

2020年6月

木村崇人